

# 豊後高田市 校長研修会

～「成果につながる学校マネジメント」  
を推進するために～

中津教育事務所  
工藤克文

# 学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現  
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の  
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

**学習内容の削減は行わない**※

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・  
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる  
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い  
理解を図るための学習過程  
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

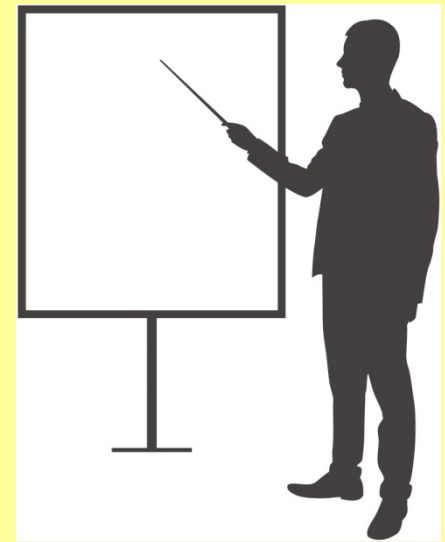
深い学び

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

# 今日のトピックス

## ① 「学校マネジメントの4つの観点」

- ・ツールとして
- ・ミドルリーダーの活用
- ・成果につながるとは



## ② 学校教育目標の設定

# 今日のトピックス

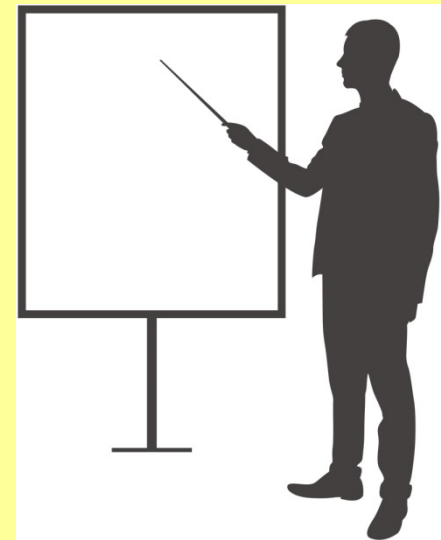
## ① 「学校マネジメントの4つの観点」

- ・ツールとして

⇒ 関連ツール・・・4点セット、3つの連動するプラン  
(今回は学力向上プラン)、学校要覧(学校組織)、  
進捗表等

- ・ミドルリーダーの活用
- ・成果につながるとは

## ② 学校教育目標の設定



# ①「学校マネジメントの4つの観点」

観点Ⅰ	学校の喫緊の課題を踏まえた重点目標を達成するため、取り組むことにより <b>重点目標の達成に近づく具体的な頻度等を書き込んだ取組指標を設定すること</b>
観点Ⅱ	客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認を行った上で、指標の妥当性を検証しつつ、 <b>重点目標達成に近づく改善方策を年度の中でも繰り返し検討すること</b>
観点Ⅲ	学校の重点目標・分掌等目標・自己目標の連動の必要性について、各種会議や面談で周知徹底を図るとともに、 <b>主要主任等が適切に指導・助言を行うこと</b>
観点Ⅳ	<b>教職員や専門スタッフ等の専門性を発揮・活用できる体制を構築し、学校の個別課題に組織的・効果的に取り組むこと</b>

# ①「学校マネジメントの4つの観点」

<p>観点Ⅰ</p>	<p>学校の喫緊の課題を迅速に重点目標を達成する  <b>取り組み指標の適切な設定</b></p>
<p>観点Ⅱ</p>	<p>客観的かつ多面的に取組指標に基づく取組状況  <b>持続発展的な短期PDCA          サイクルの確立・実働</b></p>
<p>観点Ⅲ</p>	<p>学校の重点目標、公営策目標、自己目標の連動の  <b>ミドルリーダーの助言・指導</b></p>
<p>観点Ⅳ</p>	<p>教職員が声明するべき等の声明性を発揮、活用でき  <b>「チーム学校」の実働</b></p>

# ①「学校マネジメントの4つの観点」

観点Ⅰ	学校の喫緊の課題を踏まえた重点目標を達成するため、取り組むことにより	取り組み指標の適切な設定
観点Ⅱ	客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基	持続発展的な短期PDCA サイクルの確立・実働
観点Ⅲ	学校や	ミドルリーダーの助言・指導
観点Ⅳ	教職 個別	「チーム学校」の実働



授業改善

## 学校評価の4点セット、学力向上 プラン等の取組指標の適切な設 定をするためには・・・

- 重点目標－達成指標－重点的取組－取組指標は連動していますか？
- それは、学校の喫緊の課題に直結していますか？
- 取り組むことが簡単にイメージできますか？



後ほど見直していただきます



**学校全体では…**

**学校の教育目標・重点目標との連動**

- ・ 学校の喫緊の課題に直結した  
重点目標—達成指標—重点的取組—取組指標の（再）設定、確認
- ・ 組織体制の（再）確認

**P**

**教職員は…**

**学校教育目標・分掌目標に沿った  
自己目標の（再）設定（目標管理シート）**

## 持続発展的な短期PDCA サイクルの確立・実働

- PDCAサイクルのスパンは？
- コーディネートする方は？
- 検証の仕方は？
- 小さなPDCAサイクルとは？

イメージで表す  
と以下のように  
なります

# ツールとして

学校評価の4点セットの  
PDCAサイクルイメージ

## 学校マネジメントの 4つの観点 II

2ヶ月～学期毎  
の見直し

学校全体では…  
スパンを区切った各取組指標達成  
に向けた実践  
～工夫改善をしながら～

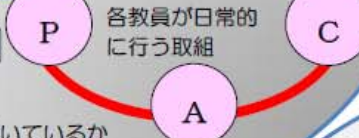
- 主要主任の指導・助言による即時的な検証・改善
- 共通スケールによるセルフチェック

- アンケート、客観性のある調査などの実施、集計
- 主要主任による取りまとめ

教職員は…

実感として…

- 達成指標に近づいているか
- 目標管理シートの内容を実行しているか



学校全体では…

取組の結果分析

- 取組の実行状況の分析、検証、改善案
- 取組指標の妥当性の検証：重点的取組は達成指標に迫っているものになっているか  
⇒学校評価

教職員は…

取組の見直し

- 取組指標の達成状況の確認
- 自己目標に沿った取組内容は学校目標達成に迫っているか

- 分掌部会等の開催
- 管理職、主要主任からの指導・助言

学校全体では…

学校の教育目標・重点目標との連動

- 学校の喫緊の課題に直結した重点目標—達成指標—重点的取組—取組指標の(再)設定、確認
- 組織体制の(再)確認

P

教職員は…

学校教育目標・分掌目標に沿った自己目標の(再)設定(目標管理シート)

- 管理職による指導・支援

学校全体では…

成果と課題の分析

- 重点目標—達成指標—重点的取組—取組指標の相関性を見直し(学校教育目標との相関性)
- 達成指標、重点的取組に修正箇所はないか
- 検証・改善を踏まえた新たな持続発展的な取組指標の設定

A

教職員は…

- 自己目標の設定の見直し
- 自己目標の具体的な方策の修正等

学校全体では…

スパンを区切った各取組指標達成  
に向けた実践  
～工夫改善をしながら～

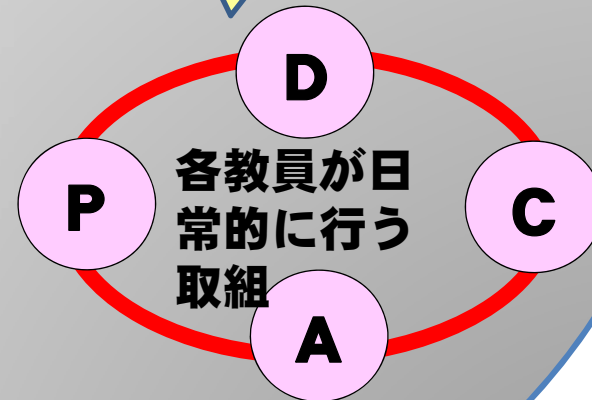
D

- ・ 主要主任の指導・助言による即時的な検証・改善
- ・ 共通スケールによるセルフチェック

教職員は…

実感として…

- ・ 達成指標に近づいているか
- ・ 目標管理シートの内容を実行しているか



ツールとして

## 学校全体では…

### 取組の結果分析

- ・ 取組の実行状況の分析、検証、改善案
- ・ 取組指標の妥当性の検証：重点的取組は達成指標に迫るものになっているか⇒学校評価

- ・ アンケート、客観性のある調査などの実施、集計
- ・ 主要主任による取りまとめ

C

## 教職員は…

### 取組の見直し

- ・ 取組指標の達成状況の確認
- ・ 自己目標に沿った取組内容は学校目標達成に迫っているか

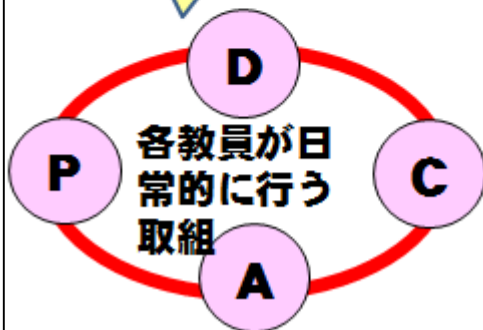
- ・ 分掌部会等の開催
- ・ 管理職、主要主任からの指導・助言



# ミドルリーダーの指導・助言

1

- ・主要主任の指導・助言による即時的な検証・改善
- ・共通スケールによるセルフチェック



2

学校全体では…

## 取組の結果分析

- ・取組の実行状況の分析、検証、改善案
- ・取組指標の妥当性の検証：重点的取組は達成指標に迫るものになっているか⇒学校評価

- ・アンケート、客観性のある調査などの実施、集計
- ・主要主任による取りまとめ

C

教職員は…

## 取組の見直し

- ・取組指標の達成状況の確認
- ・自己目標に沿った取組内容は学校目標達成に迫っているか

- ・分掌部会等の開催
- ・管理職、主要主任からの指導・助言

ポイント

個々の教員の目標管理との整合性、中長期的、DOのなかのPDCA＝短期

学校全体では…

成果と課題の分析

- ・ 重点目標—達成指標—重点的取組—取組指標の相関性の見直し（学校教育目標との相関性）
- ・ 達成指標、重点的取組に修正箇所はないか
- ・ 検証・改善を踏まえた新たな持続発展的な取組指標の設定

A

教職員は…

自己目標の設定の見直し

- ・ 自己目標の具体的な方策の修正等

管理職による  
指導・支援

## 「チーム学校」の実働

- 養護教諭、学校事務職員等の少数職種を含む教職員や専門スタッフ等が、必要に応じて関係機関とも連携しながら、**チームとして実働（効果的に機能）し、成果を出していることが具体の事例として確認できる。**



## 「学校評価の4点セット」 を見直してみましよう

### □ 連動はできていますか？

- ✓ 重点目標－達成指標－重点的取組－取組指標の  
相関性は大丈夫でしょうか
- ✓ 年度を跨ぐ取組になっていますか

### □ 誰が「軸」の役割をしていますか？

- ✓ 分掌部会、学年部会、教科部会では？
- ✓ 「検証」「改善」事項は達成指標に迫るイメージが持  
てますか（迫っていますか）
- ✓ 新たなステージでの取組は各々の教職員の目標管  
理との整合性は取れているでしょうか

ミドルリーダーの活用へ

# ミドルリーダーの活用

- では、まず教務主任（ミドルリーダー）に、実際に何をしてもらいますか？



① 4点セットの取組指標を見直してみましよう

適切に設定されていますか？

今回は校長先生方に見直していただきます

適切に設定さ  
れていますか？



- **重点目標—達成指標—重点的取組—取組指標の整合性は？**
- **そもそも重点目標は学校の喫緊の課題に基づいたものになっていますか？**

と、学校訪問では確認をさせていたのですが…



「適切に」をもう少し深堀をすると…

- ① **そもそも重点目標は学校の喫緊の課題に基づいたものになっているか**  
= **重点目標は、学校教育目標と連動しているか**
- ② **喫緊の課題は以下の2点に基づいて設定（共通理解された）ものになっているか**
  - ・ **学校教育目標：全職員による課題のあぶり出しによるものや校長のビジョンであるか**
  - ・ **昨年度PDCAサイクルをまわした（年度を跨ぐ）結果、課題として残っているものなのか？**

**つまり、学校教育目標は全職員で見直しをされたものなのか？**

**→ 全職員が納得しているのか＝喫緊の課題に直結しているか？**
- ③ **重点目標—達成指標—重点的取組—取組指標の整合性は？**
  - ・ **誰が、何を、いつ、どのように、どれくらい、どうやってするのかをイメージできる？（書き込まれているか？）**
  - ⇒ **検証が容易にできるか？**

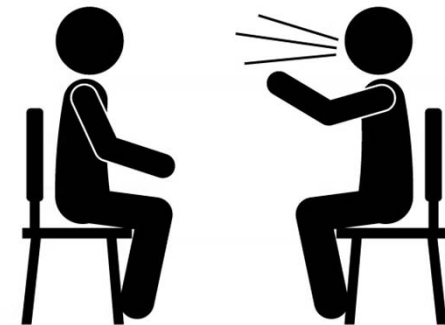
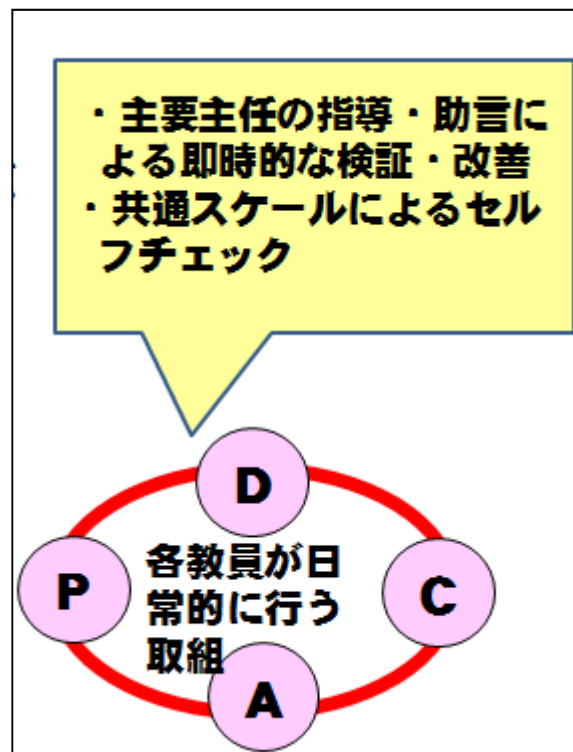


について、ミドルリーダーが  
コーディネートしていきます

## ② 学校評価の4点セットと学 力向上プランの整合性の確認 をしましょう

⇒第1回地域授業改善協議会で実施済みです  
ので、もう一度見直しをされてみてはいかがで  
しょうか。

### ③ PDCAサイクルのうち“DO”ではどんな助言がされていますか？



### ③ PDCAサイクルのうち“Check” ではどんな助言がされていますか？

#### 学校全体では・・・

##### 取組の結果分析

- ・取組の実行状況の分析、検証、改善案
- ・取組指標の妥当性の検証：重点的取組は達成指標に迫るものになっているか⇒学校評価

- ・アンケート、客観性のある調査などの実施、集計
- ・主要主任による取りまとめ

C

#### 教職員は・・・

##### 取組の見直し

- ・取組指標の達成状況の確認
- ・自己目標に沿った取組内容は学校目標達成に迫っているか

- ・分掌部会等の開催
- ・管理職、主要主任からの指導・助言

達成指標にどれだけ迫っているかの検証も必要

③ PDCAサイクルのうち“Check”  
ではどんな助言がされていますか？

そのためには日常的にどんなことを  
しておくことが必要でしょうか？

例えば

- アンケート調査項目の精査
- 授業の好事例（板書等）の共有できる状況の  
確認
- 組織的な取り組み状況の確認（授業、行事、  
生徒指導等）

その結果



※ 全職員による個人の目標管理と  
4点セット、学力向上プラン等が  
連動しているかを把握します



進捗表を作成して  
全職員で「見える  
化」しましょう

管理職と協議、すり合わせ  
※ミドルアップ・ダウンマネジメント

実践例等はぜひ中津教育事務所HP  
をご参照ください

# 成果につながるとは

領域	成果につながっている状態
観点Ⅰ	<p>① 「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」行うかを、重点的取組ごとに過不足なく、<b>的確な内容で具体的に書き込んだ取組指標</b>が設定されている。</p> <p>② 「学校評価の4点セット」の4点が整合的かつ連動するものであり、これに検証・改善を加えることで<b>成果に繋がるもの</b>となっている。</p>
観点Ⅱ	<p>① 短期の検証・改善を積み重ねるとともに、<b>年度を跨いだ継続性のある検証・改善</b>を行っている。</p> <p>② ①の結果、重点目標等に照らして<b>右肩上がりの成果</b>を出している。</p>
観点Ⅲ	<p>① 目標達成に向けた組織的取組が実働(効果的に機能)し、成果を出していることが<b>具体の事例として確認</b>できる。</p> <p>〈任意ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問等で、各種目標や取組状況について<b>主要主任がしっかりと説明</b>することができる。</li> <li>・主要主任等の目標管理シートにおいて、重点目標、分掌等目標、自己目標の連動が確認できる。</li> </ul>
観点Ⅳ	<p>① 養護教諭、学校事務職員等の少数職種を含む教職員や専門スタッフ等が、<b>必要に応じて関係機関とも連携しながら、チームとして実働(効果的に機能)し、成果を出している</b>ことが具体の事例として確認できる。</p>

「学校評価の4点セット」と  
「学力向上プラン」を見なが  
ら、短期PDCAサイクルでの  
「成果」をイメージしてみま  
しょう

昨年度の例から



観点「

- ①「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」行うかを、重点的取組ごとに過不足なく、**的確な内容で具体的に書き込んだ取組指標**が設定されている。
- ②「学校評価の4点セット」の4点が整合的かつ連動するものであり、これに**検証・改善を加えることで成果に繋がるもの**となっている。

成果につながる  
イメージは？

H29年度好事例より

- ・授業における「学びあいの場」の現状の取組状況を明確が明確であり、改善点が全職員で共通理解されている
- ⇒よって学校評価の4点セットの取組指標が焦点化され取組が容易にイメージできる



成果へ

観  
点  
目  
標

- ① 短期の検証・改善を積み重ねるとともに、**年度を跨いだ継続性のある検証・改善**を行っている。
- ①①の結果、重点目標等に照らして**右肩上がりの成果**を出している。

成果につながる  
イメージは？

H29年度好事例より

- ・学校評価の4点セットの達成指標に対する中間的な見取りが進捗管理表に加筆されている
- ⇒短期での検証改善ができており、達成指標に迫れるような成果につながるサイクルができています



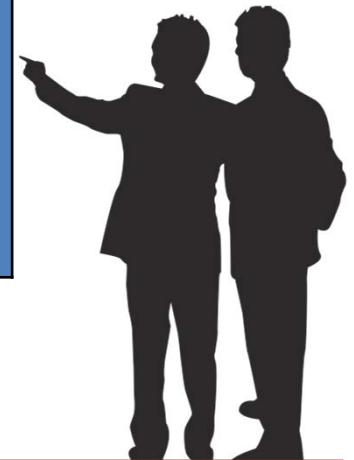
成果へ

観点Ⅰ

① 目標達成に向けた組織的取組が実働(効果的に機能)し、成果を出していることが具体の事例として確認できる。

〈任意ポイント〉

- ・学校訪問等で、各種目標や取組状況について主要主任がしっかりと説明することができる。
- ・主要主任等の目標管理シートにおいて、重点目標、分掌等目標、自己目標の連動が確認できる。



H29年度好事例より

成果につながる  
イメージは？

生徒指導主任、体育主任を20歳台、30歳台前半の若手が明確なミッションを持って実働していた。学校訪問際の説明でも自信を持って、各分掌の取組説明をした。

⇒若手やベテランを問わず、個人でしっかり考えさせ、自分の考えを持たせるペアやグループで交流という統一した学習過程のもと、一定水準の授業が行われていた。

併せて、若い分掌主任をベテランが支えようという雰囲気校内に満ちており、若手にイニシアチブを与えることで、組織的な人材育成も図られている。組織的な取組の歯車が非常によく回っている。=観点Ⅰ、Ⅱとの連動



成果へ

観点  
TV

① 養護教諭、学校事務職員等の少数職種を含む教職員や専門スタッフ等が、必要に応じて関係機関とも連携しながら、チームとして実働(効果的に機能)し、成果を出していることが具体の事例として確認できる。

成果につながる  
イメージは？



H29年度好事例より

・不登校傾向生徒2名について児童支援員やSCと組織的に取り組み、生活指導主任と連携しながら改善の方向へつなげている

⇒その結果、新たに貧困問題等が明らかになり、SSW等の外部機関と連携を密にして保護者支援を含めてチーム学校として機能し、不登校傾向が改善するなど成果につながっている

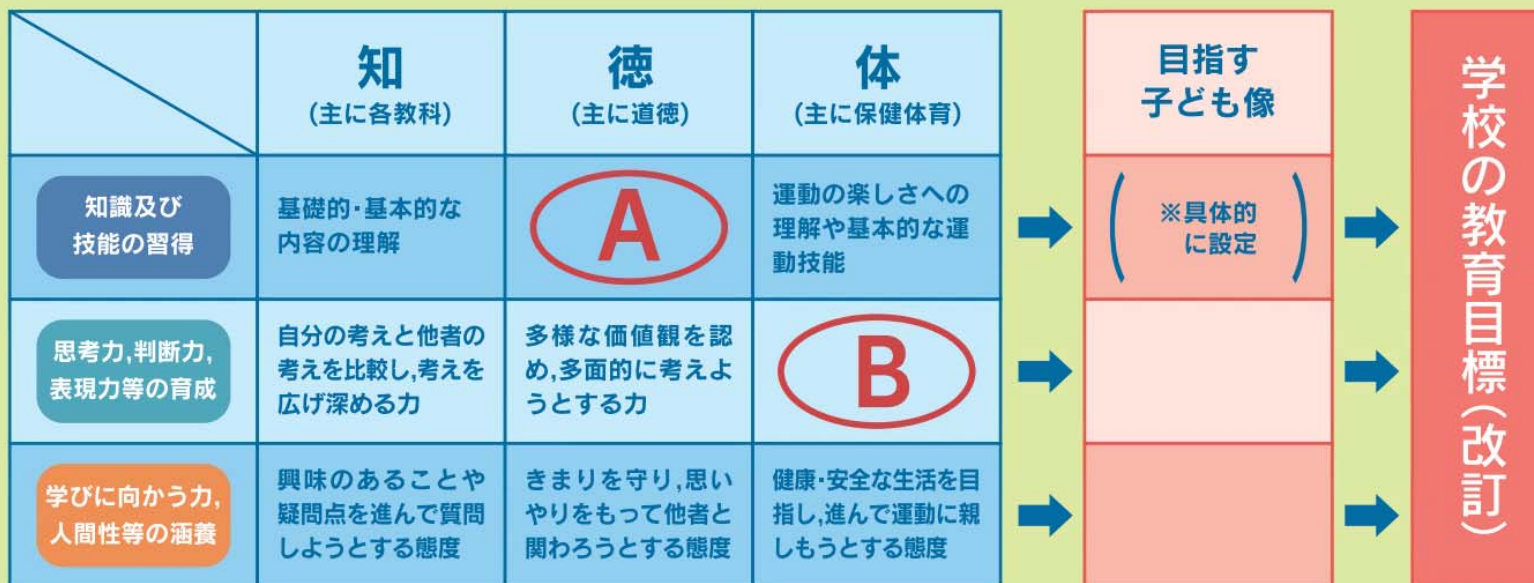
# まとめ

- 観点 I～IVのそれぞれが**独立しているのではなく、関連性がある。**
- PDCAサイクルは**年度を跨いでも、持続発展的にまわしていく。**  
(人が変わっても改善の歩を止めない)
- ミドルリーダーは**学校マネジメントの軸になる**  
⇒ **ミドルアップ・ダウンマネジメントの実働**

## ②学校教育目標の設定へ

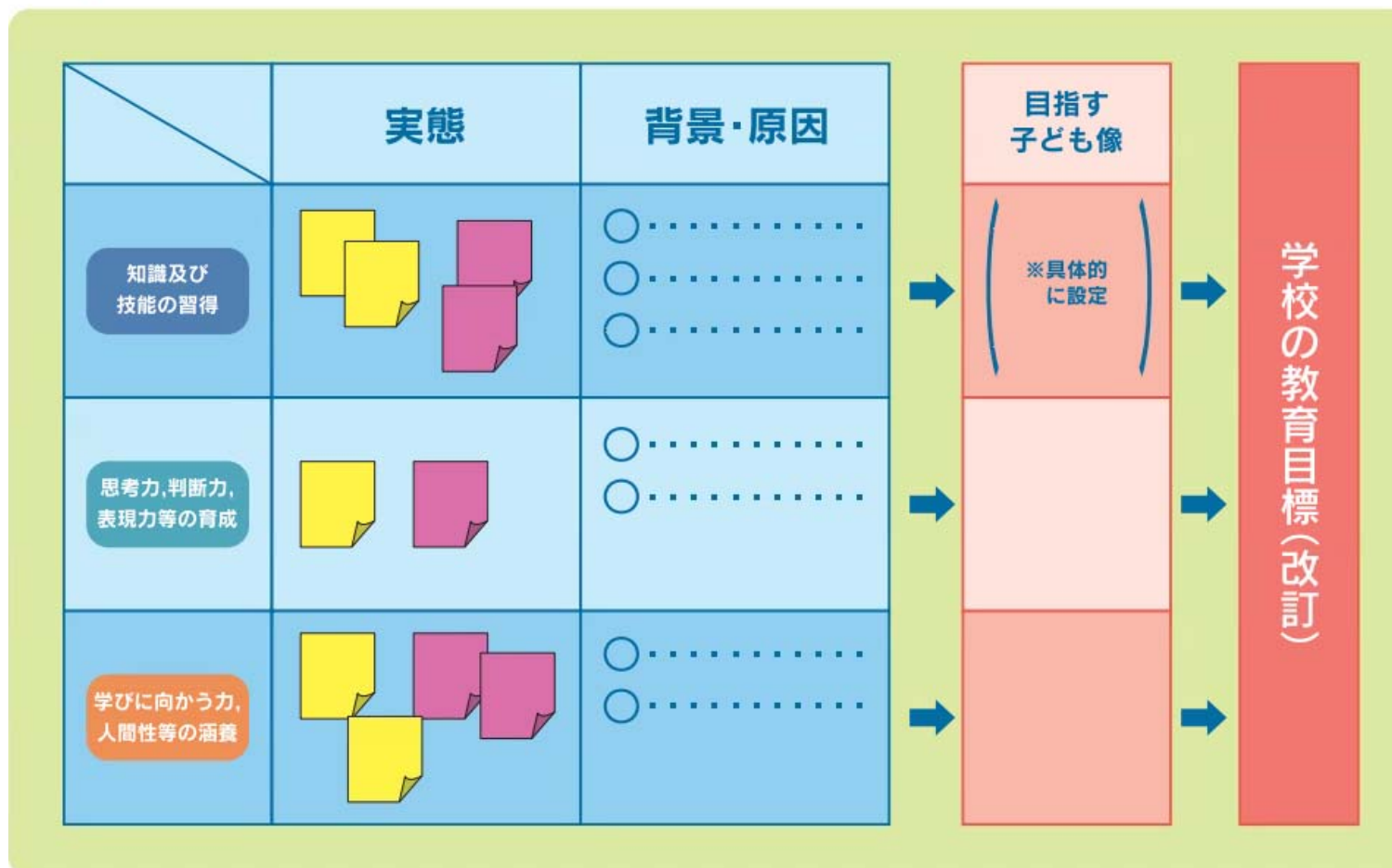
学校の教育目標(現行)

豊かな心と確かな学力を身に付けた心身ともに健康な子どもの育成



## ②学校教育目標の設定へ

見直し【例2】 子どもの実態や教師の願いから育成を目指す資質・能力を考える



# 中津市立山口小学校の取組

全職員に知(教科)、徳(道徳)、体(保健体育)の領域で、  
3つ資質、能力別についてランダムに課題を表記



それぞれの観点について分類し、見える化し協議



課題を3つ資質、能力毎に焦点化⇒目標設定へ

# 中津市立山口小学校の取組

全職員に知(教科)、徳(道徳)、体(保健体育)の領域で、  
3つ資質、能力別についてランダムに課題を表記

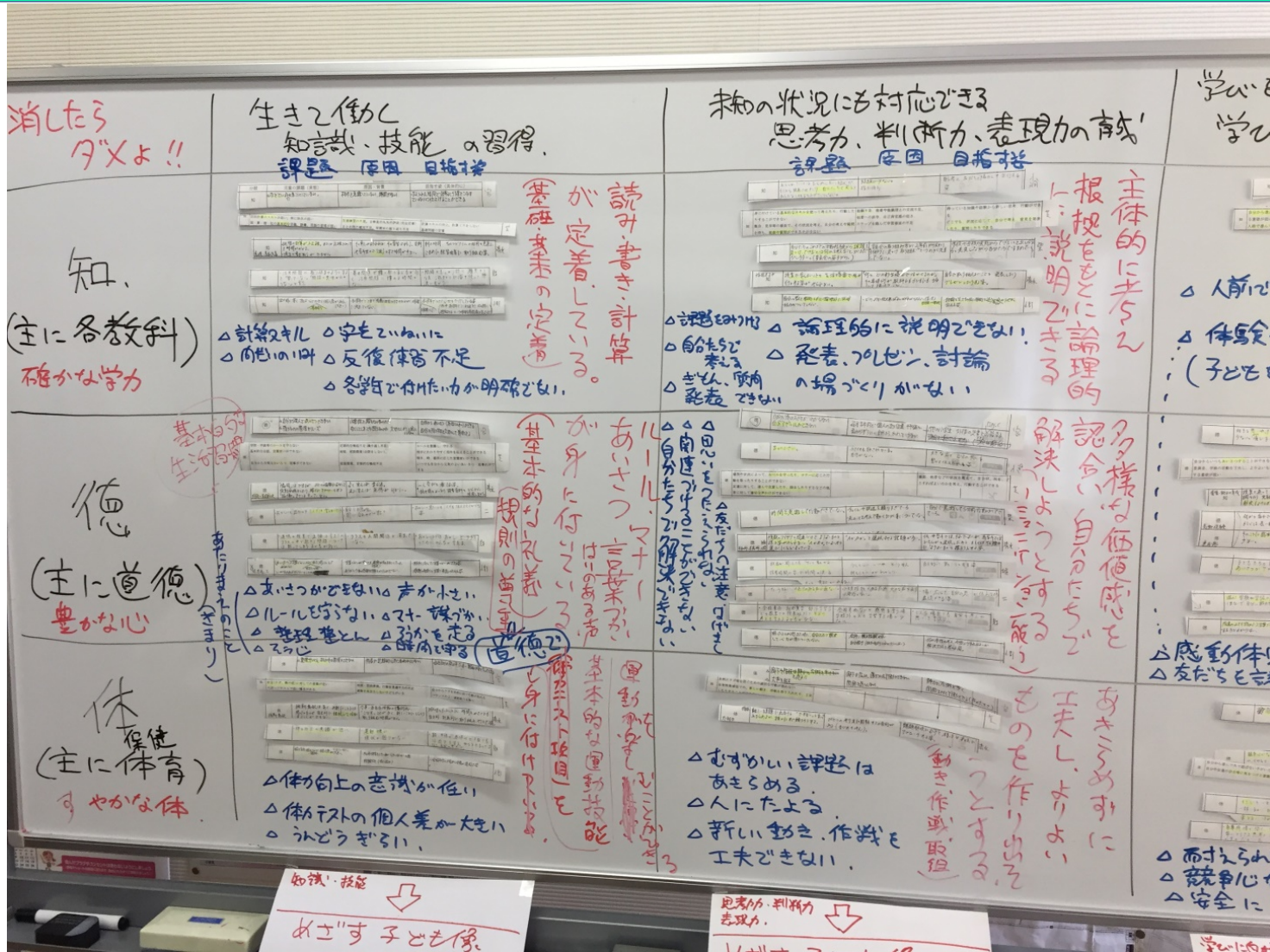


分類し、見える化し協議

ミドルリーダーが  
主体となって、短期PDCAサイ  
クルが実働し、年度  
を跨いで解決に向  
けていくもの

重点化⇒目標設定へ

全職員に知(教科)、徳(道徳)、体(保健体育)の領域で、3つ  
資質、能力別についてランダムに課題を表記



# それぞれの観点について分類し、見える化し協議

The whiteboard is divided into several sections with handwritten notes:

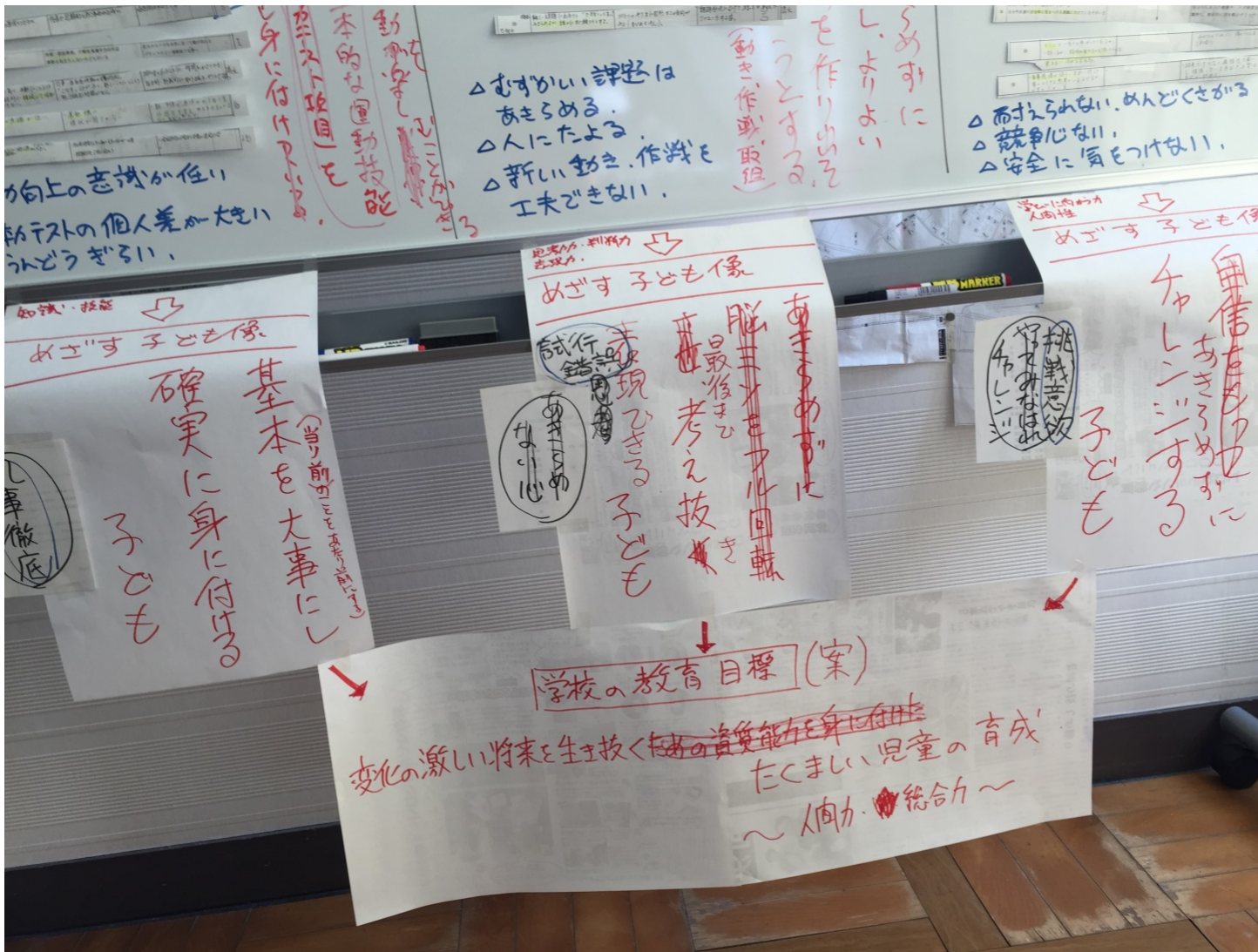
- Top Left:** 能の習得, 目標, 読み書き・計算, 基礎素養の定着, 読書が定着している.
- Top Middle:** 未知の状況にも対応できる, 思考力, 判断力, 表現力の育, 課題, 原因, 目標, 主体的に考え, 根拠を基に論理的に説明できる.
- Top Right:** 学びと人生や社会に生かそうとする, 学びに向かう力, 人間性の涵養, 課題, 原因, 目標, 総合, 体験不足, 経験不足, 人前ですすんで発表できない, 自信が持てない.
- Middle Left:** 意欲不足, 自学力が明確でない, 基本的生活習慣, 挨拶, 挨拶が出来る.
- Middle Middle:** 論理的に説明できない, 発表の機会, 討論の場づくりがない, 多様な価値感を認め, 自己表現, 解決しようとする.
- Middle Right:** 田舎の心, 他者と関わり, 自信, 感動体験, 達成感がない, 友だちと意見ある, 友だちと意見ある.
- Bottom Left:** 志欲が低い, 個人差が大きい, 基礎的な運動技能, 身に付けさせる.
- Bottom Middle:** 工夫し, よりよいものを作り出そうとする, 工夫できない, 工夫できない課題はあきらめる, 人にたよる, 新しい動き, 作業を工夫できない.
- Bottom Right:** 健康, 安全な生活をめざし, 昔ながらの運動にも挑戦する, 安全に気づけたい.

At the bottom of the whiteboard, there are three small white cards with arrows pointing to specific sections:

- Left card: 子供も像
- Middle card: 思考力, 判断力, 表現力, 子供も像
- Right card: 学びに向かう力, 人間性, 子供も像, 多様な価値感を



# 課題を3つ資質、能力毎に焦点化⇒目標設定へ



# 中津市立城井小学校の取組

# 学校環境

## ・環境の変化

(社会環境、学校を取り巻く環境の変化など)

## ・現状

(学校・生徒の実態、保護者・地域ニーズなど)

## ・ミッション

(義務教育・公立学校のミッション、教育法令など)

## ・方向性

(文部科学省、県・市教委の方針、次期学習指導要領など)

# 学校の価値

**学校の価値は、日本の将来を担い  
社会に貢献できる子どもを育てる  
ことで、社会に貢献するところにある  
と考えています。**

# 経営ビジョン

- **将来の社会づくり**
- **ひとり一人の自己実現**
- **自分、学校、地域を誇りに思う学校づくり**

# 中学、高校、・・・社会が求める力

現在

中学、高校、(大学)・・・

社会

中学、将来につながる城井小学校

新学習指導要領→

小学校

中学校

- ① 規律ある学校生活
- ② 学力向上
- ③ 心の育成
- ④ 集団行動、仲間づくり
- ⑤ 成長するための行動
- ⑥ 夢・志、進路実現

高校入試

① 4年前の高校入試から、配点や時間が変更（1教科あたりの配点50点→60点、時間45分→50分）

② 基礎知識を活用して課題の解決を図る力や、自分の考えを正しく表現する力を問う問題が増える

社会

・活用力 新規  
・即戦力  
・汎用力

既存  
【社会人基礎力】  
① 前に踏み出す力  
② 考え抜く力  
③ チームで働く力  
【就職基礎能力】  
① コミュニケーション能力  
② 職業人意識  
③ 基礎学力  
④ ビジネスマナー  
⑤ 資格取得

グローバル化  
情報化  
多様化

基礎知識 ⇒ 基礎知識 + 「知識を活用する力（思考力・表現力等）」 + 「行動力」 + 「多様化対応力」・・・

中学、将来につながる城井小学校

## 学校目標（人生目標）

自分の『**成長**』を追い求め、  
**夢**と**志**をもって**将来**をつくる

# 目標に込める願い

自分の『**成長**』を追い求め、  
**夢**と**志**をもって**将来**をつくる

【子どもたち】が

夢と志をもって自分の「将来」をつくりあげるために、その基盤となる小学校時代にやるべき知徳体の修得に「全力」で取り組むとともに、様々なことに「チャレンジ」し、自己の「成長」を意識し行動できるようになることを目指す。

【学校】及び【学校関係者】が

夢と志をもって子どもたちの育成に「全力」で取り組むとともに、様々なことに「チャレンジ」し、自らが「成長」しつづけることで、「将来の社会づくり」に貢献することを目指す。



# めざす姿

めざす学校像

めざす児童像

めざす教職員像

目標の実現

自分の『**成長**』を追い求め、  
**夢**と**志**をもって**将来**をつくる

- ・**総合力**(学校+保護者+地域)を発揮する学校。
- ・関係者の心に火をつける学校。

- ・**確かな学力**をもち心豊かでたくましい児童。
- ・**自律的に考え行動**できる児童。
- ・**自信**をもって生きる児童。

- ・**プロフェッショナル**として腕を磨き続ける教職員。
- ・児童の可能性を引き出す教職員。

# 旧学校教育目標

賢く心豊かでたくましい城井っ子の育成

かしこく

ゆたかに

たくましく

# 学校教育目標

かしこく ゆたかに たくましく

児童が将来社会で活躍するために、

① 自ら学び・創造・表現する力、

② 自他を大切にする力、

③ 成長するための行動力

を育成する。

# 「学校教育目標」と「育成を目指す資質・能力」

児童が将来社会で活躍するために、① 自ら学び・創造・表現する力、  
② 自他を大切にできる力、③ 成長するための行動力を育成する。

## 【育成を目指す資質・能力】

	目指す子ども像	知 (主に各教科)	徳 (主に道徳)	体 (主に保健体育)
知識及び技能の習得	基礎的・基本的な知識・技能を主体的に習得して、自分のものとして活用できる力を身につけた児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識・技能</li> <li>・基礎基本の力をもとにしてさらに応用していける力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の良さを理解し、自他の違いに気づく力</li> <li>・人と人をつなぐルール、マナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の楽しさへの理解や基本的な運動技能</li> <li>・安全にそして健康に生活するために必要な知識</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等の育成	自らが思考を広げたり深めたりしながら、新たな知識を創造する力を身につけた児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えと他者の考えを比較し、考えを広げ深める力</li> <li>・課題に対して自分の考えを持ち、相手を意識して表現する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な価値観を認め、多面的に考えようとする力</li> <li>・思いやりの心を持ち、他者の気持ちを考えることができる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動や健康についての課題を発見し、解決していこうとする力</li> <li>・健康安全に留意しながら、けがや病気にならないよう考え判断できる力</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等の涵養	学んだことを自分や生活とのかかわりで捉え、自分の生活や生き方に役立てようとする態度を身につけた児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは自力解決を図ろうとする態度</li> <li>・疑問点を進んで質問しようとする態度</li> <li>・自分の将来を見据えて、意欲的に学習に取り組む態度</li> <li>・難しいことや新しいことにもチャレンジしようとする態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりを守り、思いやりをもって他者と関わろうとする態度</li> <li>・将来必要になる社会性やマナーを積極的に学ぼうとする態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康・安全な生活を目指し、進んで運動に親しもうとする態度</li> <li>・お互いに助け合い・協力し合いながら体力向上をめざす態度</li> <li>・苦手な運動にも取り組もうとする態度</li> <li>・難しいことや新しいことにもチャレンジしようとする態度</li> </ul>

# 学校目標

自分の『**成長**』を追い求め、  
**夢**と**志**をもって**将来**をつくる

平成30年4月3日

# 学校教育目標

**かしこく ゆたかに たくましく**

将来社会で活躍するために、

- ① 自ら学び・創造・表現する力、
- ② 自他を大切にする力、
- ③ 成長するための行動力  
を身につける。

平成30年4月3日

かしこく

ゆたかに

たくましく

### ① 自ら学び・創造・表現する力

・多くの知識を学ぶ  
・他の人の考えを学ぶ  
・視野を広げる

たくさん入れる(学ぶ) → 自分で考える → いいものを出す

・書く  
・話す  
・発表する

### ② 自他を大切にする力

『自他』を大切にする → 自分を大切にする → 自分を生かす → 自分がえがお → みんなえがお

→ 他人を大切にする → 他人を思いやる → 他の人もえがお

### ③ 成長するための行動力

一步前進

A アクションを起こす  
B ベストを尽くす  
C チャレンジする

大切なこと

たくさん学んで、  
いいものを出す

みんな  
えがお

一步前進  
ABC

平成30年4月5日

# 城井小学校プロジェクト

## 学校教育目標

かしこく  
ゆたかに  
たくましく

児童が将来社会で活躍するために、

- ① 自ら学び・創造・表現する力、
  - ② 自他を大切にする力、
  - ③ 成長するための行動力
- を育成する。

## 城井小学校プロジェクト

目標達成のため一体感をもったプロジェクト

- ・点・線から面へ、さらに**立体**へ
- ・プロジェクト推進のキーワード

目的思考、総合力、**数値化・見える化**、原因分析、**チャレンジ**

# 校内研修で使える資料等

# 新大分スタンダードのすすめ

「新大分スタンダード」で主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成する  
ワンランク上の授業を目指して

## 1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- ＊学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- ＊学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- ＊追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

## 2 板書の構造化

- ＊思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

## 3 習熟の程度に応じた指導

- ＊「**具体的な評価規準**」に基づく確かな見取り
- ＊「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



互恵して学べる  
「学びに向かう学習集団」

## 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を創造する学習展開

- ＊各教科等の**見方・考え方を働かせて**展開する「**課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現・交流→振り返り・評価**」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
  - ・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
  - ・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

「新大分スタンダード」による授業改善は、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点による授業改善と重なります。**

○主体的・対話的で深い学びについて、中央教育審議会答申には、「単元や題材のまとまりの中で、例えば主体的に学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、子供が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で実現されていくことが求められる」とあります。「新大分スタンダード」においても、単元や題材等を問題解決的な展開にするよう改善を求めています。

○「新大分スタンダード」で目指す授業は、具体的に設定する評価規準に基づくことで、児童生徒の「めあて」がねらいに沿った具体的なものとなり、それにより児童生徒が見通しをもち、意欲を高めることを重視しています。

○また、「めあて」に即した「振り返り」を設定することで、本時の学びの成果等を実感し、学んだことを次の学びにつなげるようになることを重視しています。

○生徒指導の3機能を意識した学習展開では、自己の考えをもち、表現すること、様々な人との対話・協働により自分の考えを深化・拡充すること等を重視しています。

平成30年3月(第2版)  
大分県教育委員会

# 新学習指導要領への移行スタート

～「新大分スタンダード」と重ねて、アクティブ・ラーニングの視点で授業改善をすすめましょう～

## 1 学習指導要領改訂の背景

子どもたちが社会に出て活躍する時代は……**予測が困難な時代**

- 社会や産業の構造の変化
- 質的豊かさに支えられる成熟社会へ移行
- 生産年齢人口の減少
- グローバル化の進展

これからの子どもたちに求められるのは…

感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なり

「新大分スタンダード」による授業改善は、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点による授業改善と重なります**



# 学級経営力向上 ハンドブック

すべての児童生徒の『居場所』と『絆』が  
ある学級づくりのために



すべての児童生徒の  
『居場所』と『絆』がある  
学級づくりのために

平成30年3月  
大分県教育委員会



(6)「生徒指導の三機能を意識した授業づくり」はどのようにすればよいですか？



教師主導の授業から脱却して、児童生徒と共に創る授業展開を考えましょう。学校が目指す授業像を児童生徒と共有し、学習目標の設定と振り返りを適宜行いましょう。児童生徒による授業評価も有効です。

#### 自己決定の場を与える

「自ら課題を見付け、それを追及し、自ら考え、判断し、表現する授業」

#### 自己存在感を与える

「児童生徒一人一人に学ぶ楽しさや成就感を味わわせることができる授業」

#### 共感的人間関係を育成する

「お互いに認め合い、学びあうことができる授業」

各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動等で

# みんなであらゆる授業を創ろう！ 魅力ある授業

学びを変える  
キミが変える

この詩を参考にして、クラスオリジナルソングをつくってみよう！！

- 1 授業では「めあて・課題」を理解しよう
- 2 まずは自分なりの考えをもとう
- 3 考えたことは人に伝えていこう
- 4 友だちと協力して考えよう、やりとげよう
- 5 「まとめ・振り返り」で学びの成果を実感しよう

授業では「めあて」「課題」を理解して「めあて」から見通す これからはじまる学び

まずもう 自分の思い・考えを  
間違いは怖くない 自分で考えるんだ

思い・考え伝えよう みんなで学び合おう  
しっかり聴いてくれる 仲間たち

胸の中にある疑問 いつも確かめ合うこと  
分からないままにせず 求め追いつづけて  
キミの思い・考え 広げ深め高めよう  
学び確かなものへ

「まとめ」確認「振り返り」で 成果をかみしめて

これからは キミが変える 魅力あふれる  
授業創ろう 授業創ろう

胸の中にある疑問 いつも確かめ合うこと  
分からないままにせず 求め追いつづけて  
キミの思い・考え 広げ深め高めよう  
学び確かなものへ

「まとめ」確認「振り返り」で 成果をかみしめて  
学びを変えてゆけ！ 自分を超えてゆけ！！

Let's put this experience into practice.

◎教師自身による生徒指導の3機能を意識した授業づくり簡単チェックポイント

自己決定の場を与える	✓	自己存在感を与える	✓	共感的人間関係を育成する	✓
○興味・関心をもつ資料の提示		○間違った意見を大切にす		○発表する人の方を向かせる	
○課題・方法・形態を選択できる		○つぶやきを取り上げる		○発表する人にうなずきや相づちをさせる	
○個人の考えを話す場を設定		○児童生徒の名前を呼ぶ		○自己開示をお互いにさせている	
○考える視点や方法を示す		○全員が授業に参加できる配慮をする		○教師主導にならない配慮	
○個人で考える時間を取る		○発言しない児童生徒への配慮		○発言をつなげ、集団で学び合う	
○体験的な活動をさせている		○賞賛や励ましの言葉を与える		○児童生徒の意見を傾聴する	
○思考過程がわかるノートやワークシートの書き方を指導している		○児童生徒の実態を把握しておきどの場面で生かすか考えておく		○相互評価などお互いのよさを認め合う活動を行う	
○振り返りをさせている		○多様な考えを認めている		○授業の開始終了時刻を守る	
○対立意見を生むような発問をしている		○役割分担を決めて、一人一人追究に参加させている		○ペアやグループ学習で、協力して課題解決の場を設定	

# 人権の『授業づくり』のすすめかた

～2つの取組 4つのポイント～ 大分県教育庁人権・同和教育課

本パンフレットは、『**個人権課題（小一中一高）学習系統表<同和問題編>**』（平成28年作成）を實踐する上で、具体的な授業づくりのポイントを示すものです。  
**部落差別の問題（同和問題）をはじめとした様々な人権問題の学習で活用し、「主体的・対話的で深い学び」をめざしましょう。**

## 取組1 育てたい資質・能力を明確にした授業を

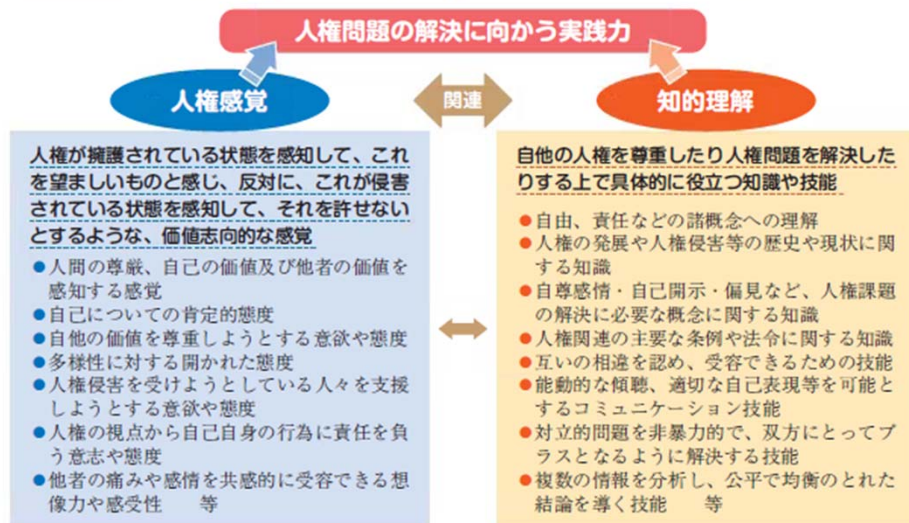
- ポイント① 「人権感覚」と「知的理解」の2つを基盤として捉える。
- ポイント② 発達段階に応じて系統的に取り組む。

## 取組2 「深く」人権について考える学習活動を

- ポイント③ 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を適切に位置づける。
- ポイント④ 「人権が尊重される授業づくりの3視点（以下、「人権尊重の3視点」と表記）」を活用した学習展開を工夫する。

## 取組1 育てたい資質・能力を明確にした授業を

ポイント① 「人権感覚」と「知的理解」の2つを基盤として捉えましょう。



※「人権感覚」と「知的理解」とが統合して、「人権問題の解決に向かう実践力」につながります。

「**個人権課題（小一中一高）学習系統表<同和問題編>**」（平成28年度作成）を實踐する上で、具体的な授業づくりの**ポイント**を示すものです

## 取組2 「深く」人権について考える学習活動を

### ポイント③ 「めあて・課題・まとめ・振り返り」を適切に位置づけましょう。

児童生徒が自分なりの考えを持って取り組み、子ども同士や教職員等と対話・議論し合う中で考えを広げたり深めたりしながら、人権について考える授業をめざしましょう。

学習への意欲を高める「めあて」  
追求すべき事柄を明確にする「課題」  
学習の成果を整理する「まとめ」  
日常生活につなげる「振り返り」

学習のねらい等に応じて、児童生徒の思考の流れがすっきりするように、柔軟に設定しましょう。

### ポイント④ 「人権尊重の3視点」を活用した授業展開を工夫しましょう。

「人権尊重の3視点」は、児童生徒の「自己有用感」を高めるための視点であり、「わかる授業」の成立のための視点です。「新大分スタンダード」に示す「生徒指導の3機能」と同一ですが、人権教育では〔第三次とりまとめ〕に従って「人権尊重の3視点」と表記しています。

#### ● 自己存在感 を持たせる支援

自分の考えを書いたり話したりして、みんなの前に示す支援の工夫がある。

#### ● 共感的関係 を育成する支援

友達の発言の良さに気付くと共に、互いの考えを交流し、互いの良さに学び合う場の工夫がある。

#### ● 自己選択・決定 の場の設定

自分の考えを持たせる場の工夫がある。また、学習成果のまとめ方を自分で選択・決定できる場の工夫がある。